

令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立戸山小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月8日】

| | | |
|------|--------|---|
| 授業作り | 重 点 | 主体的・対話的で深い学びにつながる学習指導を展開し、資質・能力を身に付けさせるとともに、確かな学力の向上を目指す。 |
| 環境作り | | 校内研究を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校における諸問題を解決しようとする自主的・実践的態度を育てる。 |

■ 学年の取組について

| 学 年 | 学習状況の分析 (各種調査から) | 学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から) | 目標達成のための取組 |
|-------------|--|---|---|
| 1 学 年 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの書き順やとめ・はね・はらいなど、字形を整えて丁寧に書く意識をもたせる。 ・場面の様子を理解し、スムーズに音読できるようにする。 ・数の大小の関係性を理解できるようにする。 ・問題場面を理解して正しく立式できるようにする。 | <ol style="list-style-type: none"> ①空書きで書き順をしっかりと確認することを指導する。 ②授業や家庭学習に音読活動をすすんで取り入れ、読む力の指導の充実を図る。 ③図書館スタッフと協力して様々な種類の本に触れる機会を設ける。 ④ブロックなどの半具体物を操作する学習活動を展開する。 ⑤視覚的に理解を深めるため、ICT 機器を有効活用する。 ⑥デジタルドリルや算数ワークを活用する。 |
| 2 学 年 | | <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちや様子を表す言葉など、様々な言葉の表現を知り、使えるようにする。 ・助詞を正しく使い、伝えたいことを文で表現する。 ・漢字の筆順や字形に気を付けて書き、適切な使い方を身に付ける。 ・数の位やまとまりを意識して問題に取り組めるようにする。 | <ol style="list-style-type: none"> ①分からない言葉は全体で調べて確認したり、複数の表現を確認してから作文を書く活動に入ったりするなど、言葉の使い方を考えさせる機会を意図的に取り入れる。 ②デジタルドリルや算数ドリル・漢字ドリルを活用した反復学習に取り組ませる。 ③漢字の小テストを定期的実施し、反復練習を重ねることで新出漢字の確実な定着を図る。 ④具体物や図を活用して視覚的に捉えたり、考えを表したりできるように指導する。 |
| 3 学 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・正確な四則計算の能力の向上が必要である。 ・自分の意見や考えを正しく表現する力の向上が必要である。 ・漢字の読み書きについて力 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な反復学習により、四則計算の定着を図っていく。 ・様々な教科で自分の思いや考えを表現する活動を取り入れる。 ・家庭学習や確認テストの振り返りの徹底を通して漢字の定着を図る。 | <ol style="list-style-type: none"> ①デジタルドリルを活用した反復学習に取り組む。 ②自分の考えや学習の感想を表現する機会を意図的に取り入れる。 ③学級全体や小グループで自分の意見を伝え合う機会を確保する。 |

| | | | |
|-------------|---|--|--|
| | を伸ばす必要がある。 | | ④漢字の視写の時間を確保する。 |
| 4 学 年 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きについて力を伸ばす必要がある。 正確な四則計算の能力の向上が必要である。 「式による表現」、「長さ」や「時刻と時間」の正しい理解に課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 日々の学習による漢字・計算の定着を図る。 文章問題の立式において、問題の意味を理解して図に表せるようにする。繰り返し問題を解くことで習熟を図る。 算数では、「長さ」「時刻と時間」の既習事項に触れる機会をもつことで、学習内容の定着を図るようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ①既習内容（漢字・計算）の反復練習に取り組みさせる。 ②デジタルドリルを中心とした様々な学習ツールを積極的に活用する。 ③文章問題において、「聞かれていること」と「わかっていること」の関係を図やイラストを用いて説明させる。 ④長さや時間を実感できるように、反具体物などを用いた活動に等を充実させる。 |
| 5 学 年 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きについて力を伸ばす必要がある。 国語では、「言葉・情報・言語文化」の領域について力を伸ばす必要がある。 算数では、「数と計算」「図形」の領域の力の向上が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字学習を日常的に継続して行い、既習漢字の定着を図る。 辞書の活用や読書活動などを通して、語彙力の向上を目指す。 言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使えるようにする。 計算の順序を意識させる。また、計算問題に繰り返し取り組み、速く正確に計算する力を身に付ける。 図形の特徴を整理し、正確に作図することのできる力を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ①既習内容（漢字・計算）の反復練習に取り組みさせる。 ②図書館スタッフと協力して様々な種類の本に触れる機会を増やす。 ③国語辞典を積極的に活用する。 ④感情や様子を表す言葉や、表現を使うように指導する。 ⑤デジタルドリルを中心とした様々な学習ツールを積極的に活用する。 ⑥三角定規、分度器、コンパスなどの道具を使う活動を意図的に取り入れる。 |
| 6 学 年 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きについて力を伸ばす必要がある。 国語「言葉・情報・言語文化」と「書くこと」の2領域について力を伸ばす必要がある。 算数では、特に「数と計算」「図形」「データの活用」の領域での力を伸ばす必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字学習を日常的に継続して行い、既習漢字の定着を図る。 語彙を増やす。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使えるようにする。 様々な教科で自分の考えや思いを書けるようにする。 算数では、「数と計算」「図形」「データの活用」の既習事項に触れる機会をもつことで、学習内容の定着を図るようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ①既習内容（漢字・計算）の反復練習に取り組む。 ②デジタルドリルを中心とした様々な学習ツールを積極的に活用する。 ③学校図書館などを利用し、日常的に読書活動に取り組む。 ④辞書を活用して、日常的に意味調べを行う。 ⑤学習のまとめや振り返りなど、自分の考えや意見を文章化する機会を各教科で取り入れる。 ⑥算数では、数の概念について繰り返し振り返ることで、既習事項の活用を促す。また、授業の際に具体物を活用して空間的なイメージをもてるようにする。 |